

全体総括

○計画期間；平成19年11月～平成25年10月

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

事業開始当初に発生した建設資材等の高騰や計画期間内に発生した東日本大震災の影響、全国的な経済の衰退などにより、計画に掲げた事業進捗が遅れたことから、計画終了時には当初掲げていた目標を達成することはできなかったが、計画期間の後半から歩行者通行量や小売業年間商品販売額の両指標の数値の下げ止まりの傾向があらわれてきている。なかでも集客拠点施設として整備したスカイプラザミサワ周辺の歩行者通行量の増加などが事業開始以後目に見えてあらわれていることから、今後はこれらの効果を地域全体の経済効果につなげるべく関係団体などと綿密に連携を図り事業展開している。

また、計画に掲げていた定住化施策への取り組みが遅れたことで、計画期間内での定住化に関する事業効果が見込めなかったが、賑わい空間の整備や良好な住環境の整備が進められたことで、今後当該地域への定住希望者の増加が見込まれることから、引き続き当該地域における定住促進施策を展開していくこととしている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
② 若干の活性化が図られた
③ 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
④ 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

当計画では「魅力・活力を創出する三沢市の『顔』にふさわしい中心市街地の形成」「アメリカンテイストなライフスタイルを楽しめる中心市街地の形成」「安心して住み続け、暮らせる中心市街地の形成」の3つの基本方針を掲げ、活性化に資する49の事業を推進してきたが、内 44 事業が実施済みとなり5事業が未実施となった。

中でも「魅力・活力を創出する三沢市の『顔』にふさわしい中心市街地の形成」及び「アメリカンテイストなライフスタイルを楽しめる中心市街地の形成」については、事業進捗の遅れなどから計画期間内で見込んでいた効果が見込めなかったが、最近ではスカイプラザミサワ周辺などは事業の成果が徐々にあらわれてきている。

「安心して住み続け、暮らせる中心市街地の形成」については、特色ある中心市街地の形成に傾斜した取り組みによって商業空間の整備を優先して進めてきたことから、地域内の居住スペースが減少したことや街なか居住に関する「街なか市営住宅整備事業」や「街なか共同住宅供給事業」が未実施となったことと「街なか医療・福祉・介護施設整備事業」の事業着手の遅れなどにより人口の減少が進んでおり、今後においては居住人口の増加に向けた各種施策の検討・実施が求められているところである。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(三沢市としての見解)

本計画に掲げた各種ソフト事業を関係団体やまちづくり団体と協働で開催してきたことで、中心市街地の活性化に向けた機運の高まりが徐々に表れてきており、当市の特色である「国際色」を前面に出したまちづくりを進めてきたことで、休日歩行者通行量が徐々に上向きに推移し、併せて市外・県外からの集客につなげることができるなど「賑わい」の点からは活性化が図られてきているが、定住人口の減少については見込んでいた効果を発揮できなかったところである。これらについては計画に掲げていた事業の未実施や進捗の遅れ、商業地域に傾向した開発を行ったことによる地域外への転出などが要因であると評価している。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

前計画(平成11年3月策定)を引き継ぐ形で平成19年11月に三沢市中心市街地活性化基本計画が認定され、以後4度の変更を経ながら計画に掲げた事業を実施してきたが、日本経済全体の低迷、郊外型大型店舗などへの買い物動向のシフト、北京オリンピックの開催などによる建設資材等の高騰や東日本大震災による地域全体の低迷など、様々な負の要因があったにもかかわらず各種事業を展開してきたことで、地域の特色を活かした街なみの形成や集客形態の確立が徐々にではあるが成果として表れてきているものと認識している。

結果的には基本計画に掲げた目標値(3指標)の達成には至らなかったが、休日歩行者通行量と小売業年間商品販売額については集客拠点施設として整備したMGプラザ(現スカイプラザミサワ)の事業進捗の遅れと大通り地区集客施設事業の未実施が要因であると考えられることから、今後における中心市街地の賑わい創出を推進する観点からも、未実施となっている大通り地区集客施設の整備について引き続き検討する必要があると考えている。

中心市街地活性化基本計画の総括としては、当該計画に基づいて各種施策を実施してきたことで、市の取り組みにリンクする形でまちづくり団体や関係機関が重層的に連携し、若者や女性がイベントなどを企画・運営する形が定着しつつあり、商業地域としてだけでなくまちづくりのフィールドとしての役割を併せ持つ事業展開につながってきている現状をふまれば、中心市街地の活性化はある程度のレベルで推進されたものと評価できる。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

市民からの評価、市民意識の変化については、当計画期間中に取り組んだ「市民協働参画まちづくり運営事業」などにより、中心市街地をフィールドにした地域づくり団体の活動が活発になったことから成果・効果があったものと考えており、これら中心市街地の活性化につなげるための活動を行っている団体等からの意見などを参考に活性化状況について考察する。

なかでも本市が主要施策として取り組んでいる『協働のまちづくり』に賛同し、協働のまちづくり市民提案事業(市独自事業)を活用して中心市街地の活性化に向けて活動している地域づくり団体(市民)が増加し、子どもから大人までが楽しめる多種多様なイベントが住民主体で開催されるようになり、これまでにない形のエリアの活用が展開されてきており、「アメリカ文化」や「国際色」などの本市の特色を活かした当該地域の情報発信につながっている。

現在は空き店舗を中長期間活用した事業を展開するまちづくり団体まであらわれてきていることから、商工会や商店会などをはじめとした関係団体や地域づくり団体が行政と協働で活性化に向けた施策を展開し、本市の特色を活かした活性化施策を展開していくことが望ましいと考えている。

地域づくり団体等による中心市街地を活用した自主事業の開催状況

年度	提案数(総数)	中央地区の事業	備考
平成21年度	11事業	2事業	クリスマスイベントほか
平成22年度	8事業	2事業	親子での街並み探検ほか
平成23年度	7事業	3事業	障害者による情報発信ほか
平成24年度	12事業	2事業	高齢者をメインにした健康づくり事業ほか
平成25年度	11事業	6事業	アートによるまちづくり、子育て男性を対象にしたイベント、アメリカの食文化紹介ほか
平成26年度	11事業	6事業	空店舗を活用した観光情報発信、BBQ イベントの開催、日米親子交流事業ほか

※ 三沢市協働のまちづくり市民提案事業の採択件数(平成26年度は提案数)

地域づくり団体の意見等(市民提案事業等により中央地区で活動を行っている地域づくり団体からの聞き取り調査)

- ・子育て世代をメインターゲットとしたイベントを実施しているが、中心市街地の街並みが整備されたことで景観が良くなり、地域全体のイメージアップにつながっている。
- ・BBQ をはじめとした地域の食文化をキーワードにしたイベントを開催しているが、アメリカ

文化が色濃く打ち出されている商店が増え、市外県外から参加した方々の満足度につながっている感じを受けている。

- ・クリスマスやハロウィンなどは商業者だけでなく一般の方々も率先して盛り上げている。これらは以前にはなかった形であると感じている。
- ・他地域から来た方々を案内できる空間ができたことは非常にうれしい。若い世代が交流（婚活イベントなど）できる機会が増え、賑わいのある地域に発展していくことを願う。

6. 今後の取組

計画に掲げた事業を推進してきたことにより、低迷していた中心市街地に回復の兆しが見えてきている。当市の中心市街地の歴史を振り返れば、米軍基地の建設と共に基地正面ゲートに隣接する地区に総延長約800mの商店街が形成され、以後昭和48年の通貨の変動相場制への転換により米軍関係者の消費購買が減少、平成7年に隣接する町への郊外型大型ショッピングセンターの建設等により小売業吸引力の低下とそれに伴う小売業年間商品販売額が急激に減少し、その結果として中心市街地の空店舗数の増加や商店街の衰退につながり、地域としての機能が危ぶまれるまでになっていたが、歩行者通行量や小売業年間販売額の下げ止まりの傾向が見え、中心市街地をフィールドとした若手の地域づくり団体が活動するなど、本計画策定以後に本来の中心市街地としての機能を取り戻しつつある状況となっている。

今後においては、これらの機運を的確にキャッチし、市民が誇りに思える中心市街地の形成を推進することが最優先であると考え、まちづくり団体や地域住民とともに当市の特色を活かした魅力ある事業を展開し、中心市街地の賑わい創出に係る施策を展開していくこととしている。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
国際色を愉しめる 賑わいあふれる 中心市街地	休日歩行者 通行量(人)	4,234 (H17)	7,016 (H24)	5,565	H25,8	B
	小売業年間 商品販売額 (百万円)	14,623 (H16)	15,161 (H24)	9,980	H26,4	C
安心して生活し 続けられる 中心市街地	中心市街地 居住人口 (人)	7,538 (H18)	7,732 (H24)	6,821	H25,10	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いてください)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績値では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

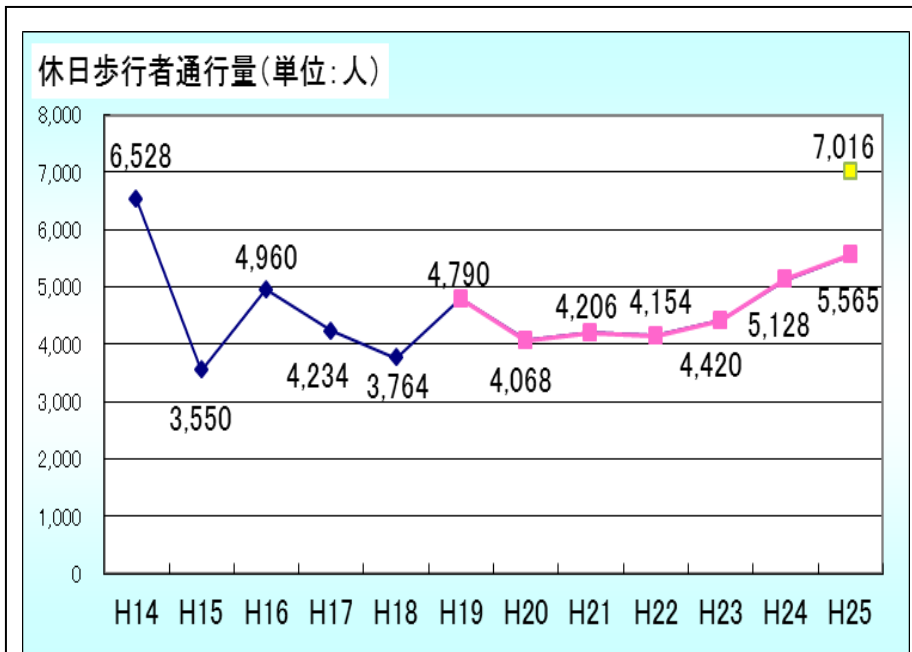
c (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「国際色を愉しめる賑わいあふれる中心市街地」

「休日歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P53～P55 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H17	4,234 (基準年値)
H18	3,764
H19	4,790
H20	4,068
H21	4,206
H22	4,154
H23	4,420
H24	5,128
H25	5,565
H25	7,016 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査

※調査月；毎年度8月実施、9月取りまとめ

※調査主体；三沢市商工会

※調査対象；中心市街地12地点の休日歩行者通行量

【総括】

基本計画の最終年における中心市街地の歩行者通行量は、当初目標として掲げた7,016人より約1,400人少ない5,565人(目標値の79%)となり、最終目標を達成することが出来なかった。

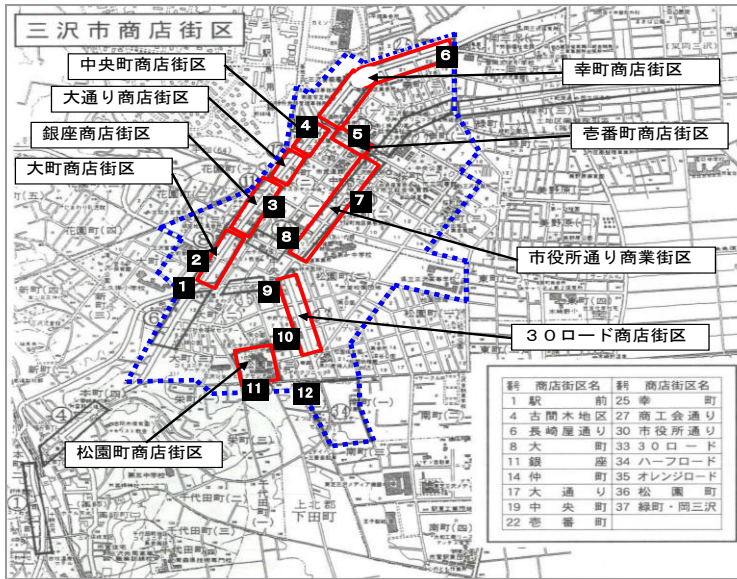
この数値は計画スタート時の基準年値(平成17年)の4,234人に比べて約1,300人(31ポイント)の増加となっているが、なかでも中央町地区都市再生土地地区画整理事業等によって整備した中央町地区の歩行者通行量が増加しており、特に三沢基地正面ゲート周辺の歩行者通行量の増加が大きいことから、スカイプラザミサワなどの国際色に特化した商業施設の集客と官民が連携して実施しているイベント等の効果であると推測される。

中央町地区以外では大町地区の通行者通行量が増加傾向に推移しているものの、ほとんどが横ばいまたは減少しており、これらについては自動車による買い物が主流となっている全国的な傾向と同様の状況で、多くの商業施設周辺の歩行者通行量は減少傾向であることが見て取れることから、このような中であって上昇傾向に推移した地域は本計画に基づいて実施した事業による効果であるものと推測される。

いずれにしても、計画策定当初の見込みを上回るスピードで当該地域における自動車での買い物が一般化したことが目標に至らなかった要因であると考え、全体的に減少する歩行者通行量を重点的に事業展開した地域の増量分で補えなかったものと考えられるが、その中でも重点的に事業展開した地域での成果が表れていることは一定の評価に値するものと理解している。

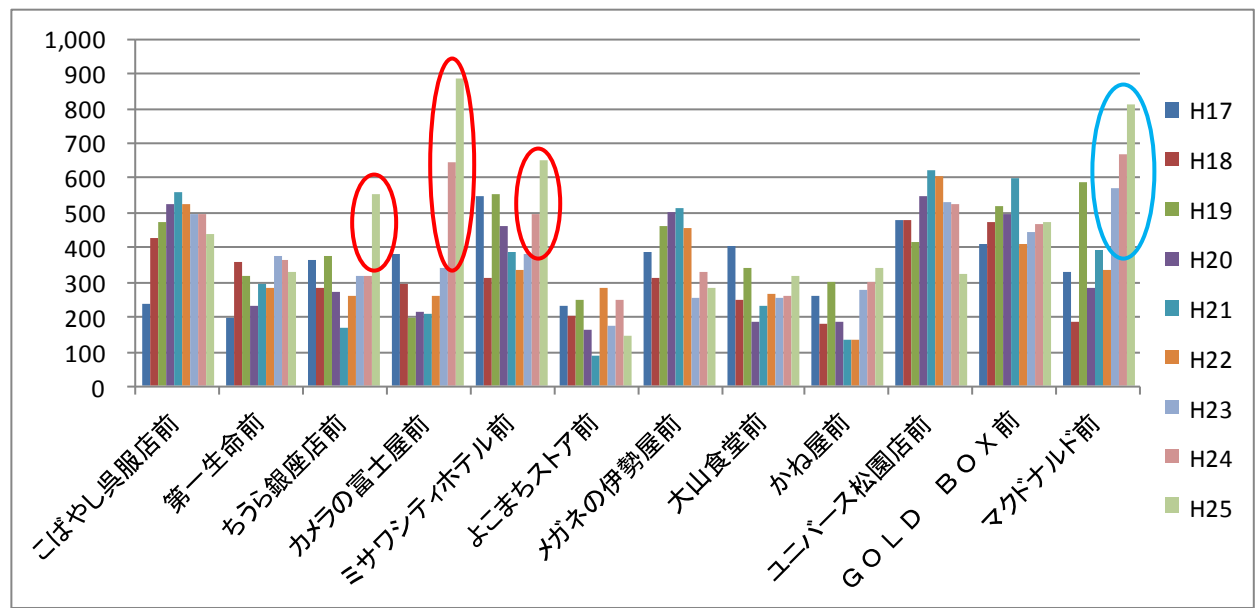
【参考】

(休日歩行者通行量・調査地点位置図)



休日歩行者通行量一覧

No	調査地点名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	備考
1	こばやし呉服店前	236	426	472	526	558	524	494	498	439	
2	第一生命前	198	360	316	232	298	282	376	367	327	
3	ちうら銀座店前	366	284	378	270	168	262	318	318	555	旧タケダスポーツ前
4	カメラの富士屋前	380	294	196	214	210	260	342	643	884	旧黒田歯科前
5	ミサワシティホテル前	546	314	552	462	386	334	382	498	652	旧竹光商店前
6	よこまちストア前	234	206	248	164	88	286	176	251	149	
7	メガネの伊勢屋前	388	310	460	504	512	456	256	330	286	
8	大山食堂前	406	248	342	186	234	268	258	260	319	
9	かね屋前	262	182	302	188	136	132	276	302	340	旧かぶと屋前
10	ユニバース松園店前	478	478	418	546	624	604	528	526	326	
11	GOLD BOX前	408	474	520	494	598	412	444	468	475	旧マルサパチンコ前
12	マクドナルド前	332	188	586	282	394	334	570	667	813	
	計	4,234	3,764	4,790	4,068	4,206	4,154	4,420	5,128	5,565	



2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. Sky Plaza MISAWA 整備事業（スカイプラザミサワ株）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成 21 年度
事業概要	中央町地区都市再生土地区画整理事業(アメリカ村整備)区域における当市の国際色豊かな個性を活かしたアメリカ村のシンボリック集客拠点、市内外の既存観光・集客施設との連携による広域観光拠点及び米国人等との国際交流拠点として機能する中心市街地の賑わい商業交流拠点整備
目標値・最新値	【目標値】歩行者通行量(③～⑤地区):対平成 17 年度比 1,258 人増 【最新値】歩行者通行量(③～⑤地区):対平成 17 年度比 799 人増
達成状況	目標を達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	スカイプラザミサワ(株)への来店者が増加し、賑わいの創出につながったことで歩行者通行量は増加したが、「商店街への周遊効果」と言う部分については当初目標として掲げたレベルに至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	国際色を活かした事業展開により市内外からの集客につながっており、中心市街地全体の賑わいの創出に貢献している。
事業の今後について	実施済み

②. 大通り地区集客拠点施設整備事業（大通り商店会街づくり委員会）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	—
事業概要	中央町地区都市再生土地区画整理事業(アメリカ村整備)により集約された空き地への拠点施設整備
目標値・最新値	【目標値】歩行者通行量:対平成 17 年度比 474 人増 【最新値】歩行者通行量:対平成 17 年度比 一人増
達成状況	目標を達成できなかった。
達成した(出来なかった)理由	当該事業の実施が困難となったため見込んでいた歩行者通行量の増加につなげることが出来なかった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 21 年度において国庫補助採択を目指していたが、当初計画していた“街の駅”機能が Sky Plaza MISAWA に配置されるなど、周辺環境の変化により補助事業採択が困難となった。現在、実効性のある代替プランを検討中である。
事業の今後について	未実施

③. アメリカ広場でのまつり・イベントによる賑わいづくり（三沢市・三沢市商工会・各種実行委員会）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事業概要	アメリカ広場などを活用した中心市街地地域でのまつり・イベント等の開催。開催にあたっては、市民、地域経済界、行政の協働による企画・運営とし、国際色を愉しめる賑わいあふれる中心市街地づくりにつなげる。
目標値・最新値	【目標値】歩行者通行量(③～⑤地区):対平成 17 年度比 550 人増 【最新値】歩行者通行量(③～⑤地区):対平成 17 年度比 799 人増
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	行政や商工会等が開催する既存にイベントに加えて、地元商店会や地域づくり団体の企画・運営によるイベントがアメリカ広場で開催されることで、中心市街地全体のイメージアップにつながり、賑わいの創出につなげることができた。
計画終了後の状況（事業効果）	関係団体との連携を図り、今後においても当市の特色である国際色を活かした事業を展開していく。特に若手の地域づくり団体が積極的に活動することで、新たな層の集客効果につながっていくものと考えている。
事業の今後について	実施済み

④. ふれあいオレンジ広場イベント事業（三沢市商工会・大町商店会・銀座商店会）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事業概要	ふれあいオレンジ広場などを活用した中心市街地地域でのまつり・イベント等の開催。開催にあたっては、市民、地域経済界、行政の協働による企画・運営とし、国際色を愉しめる賑わいあふれる中心市街地づくりにつなげる。
目標値・最新値	【目標値】歩行者通行量(①～②地区):対平成 17 年度比 230 人増 【最新値】歩行者通行量(①～②地区):対平成 17 年度比 332 人増
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	行政や商工会等が開催する既存にイベントに加えて、地元商店会や地域づくり団体の企画・運営によるイベントがふれあいオレンジ広場で開催されることで、中心市街地全体のイメージアップにつながり、賑わいの創出につなげることができた。
計画終了後の状況（事業効果）	関係団体との連携を図り今後においても当市の特色である国際色を活かした事業を展開していく。特に若手の地域づくり団体が積極的に活動することで新たな層の集客効果につながっていくものと考えている。
事業の今後について	実施済み

3. 今後について

目標として掲げた休日歩行者通行量には届かなかったが、当該地域における集客拠点施設として整備したスカイプラザミサワが本格的に営業開始した平成24年度から近隣地域の歩行者通行量が増加傾向に推移している。今後はこのような効果を地域全体に波及させるべく、商工会や観光協会などの市内経済団体や各種地域づくり団体と連携して中心市街地全体への賑わいを創出すべく取り組んでいくことが急務の課題であると認識している。

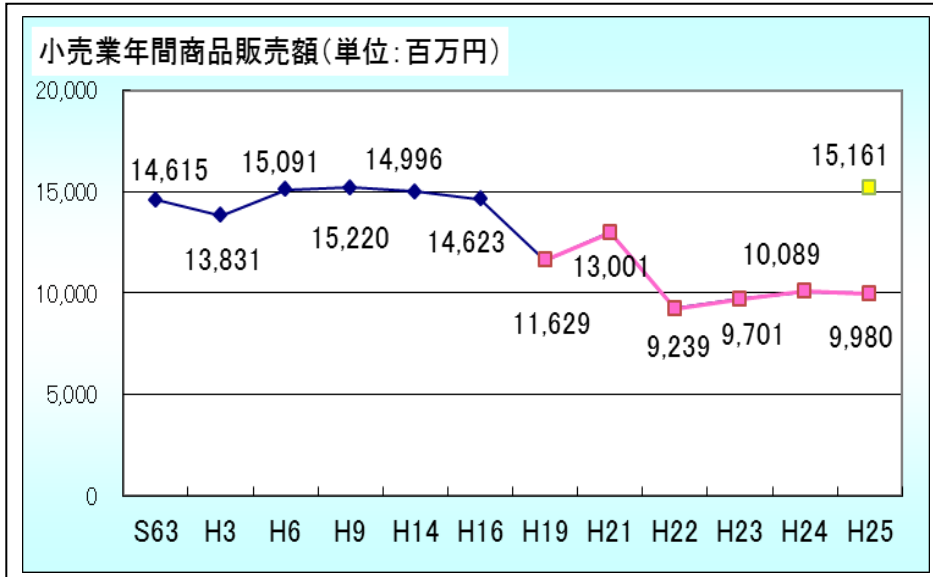
また、計画期間内に事業実施することができなかった大通り地区集客拠点施設整備事業については、別手法による賑わいづくりも候補に加えながら検討していくこととし、市内外からの集客につなげられるよう取り組んでいく。

加えて、市及び関係団体による人材育成事業による成果として、イベントの開催や賑わいづくりを自主的に行う地域づくり団体が活発に活動し、住民自らが企画・運営するイベントが年間を通して開催されている現状をふまえて、これらの団体と連携した魅力的なイベントを展開し、地域の特色を活かした賑わいづくりにつなげる。

個別目標

目標「国際色を愉しめる賑わいあふれる中心市街地」

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P56～P57 参照



年	(百万円)
H16	14,623 (基準年値)
H19	11,629
H21	13,001
H22	9,239
H23	9,701
H24	10,089
H25	9,980
H25	15,161 (目標値)

※調査方法；中心市街地商店街区の小売業店舗年間商品販売額調査

※調査月；2月～3月で調査 4月取りまとめ

※調査主体；三沢市商工会

※調査対象；中心市街地商店街区の小売業店舗年間商品販売額

【総括】

基本計画の最終年における中心市街地商店街区の小売業店舗年間商品販売額は、当初目標として掲げた 151 億 6100 万円より約 51 億 8100 万円少ない 99 億 8 千万円(目標値の 66%)となり、最終目標を達成することが出来なかった。

この数値は当初計画時に掲げた基準年値(平成 16 年)の 146 億 2300 万円に比べて約 46 億 4300 万円(32 ポイント)の減少、事業スタート時(平成 19 年)の 116 億 2900 万円に比べて約 16 億 4900 万円(14 ポイント)の減少となっている。なかでも平成 22 年には前年比 37 億 6200 万減少の 92 億 3900 万円となっているが、これは中央町地区区画整理事業の実施により既存商業者の転出・移転と新規商業者の出店の入れ替え時期と重なり、併せてスカイプラザミサワなどの中心市街地の集客施設の事業スタートが遅れたことが大きな要因であると推測されるが、平成 22 年以降は徐々に増加傾向に推移しているところである。

これらの状況をふまえ、今後においては商業者などを対象とした経営手法や商品開発などに関する各種セミナーを開催することで既存事業者の経営支援を行うほか、官民一体となったイベントの開催や地域の基幹産業である一次産業との連携を積極的に推進し、魅力ある商業地域として発展していくよう引き続き取り組むこととしている。

平成 22 年の大幅な減少などにより目標値の達成には至らなかったが、以後のトレンドとしては徐々に増加する傾向が表れていることなどから推測すると、中心市街地活性化基本計画のなかで取り組んできた事業の成果が表れてきているものと理解している。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① Sky Plaza MISAWA 整備事業（スカイプラザミサワ株）【再掲】

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成 21 年度
事業概要	中央町地区都市再生土地区画整理事業(アメリカ村整備)区域における当市の国際色豊かな個性を活かしたアメリカ村のシンボリック集客拠点、市内外の既存観光・集客施設との連携による広域観光拠点及び米国人等との国際交流拠点として機能する中心市街地の賑わい商業交流拠点整備
目標値・最新値	【目標値】目標年間商品販売額:392百万円 【最新値】目標年間商品販売額:156百万円
達成状況	目標を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	スカイプラザミサワ(株)への来店者が増加し、賑わいの創出につながったことで周辺地域の賑わい創出には一定の成果があったが、販売目標額として掲げていた目標には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	国際色を活かした事業展開により市内外からの集客につながっており、中心市街地全体の賑わいの創出に貢献している。
事業の今後について	実施済み

② 大通り地区集客拠点施設整備事業（みさわ大通り街の駅株）【再掲】

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	—
事業概要	中央町地区都市再生土地区画整理事業(アメリカ村整備)により集約された空き地への拠点施設整備
目標値・最新値	【目標値】目標年間商品販売額:247百万円 【最新値】目標年間商品販売額:—百万円
達成状況	目標を達成できなかった。
達成した（出来なかった）理由	当該事業の実施が困難となったため見込んでいた商品販売額の増加につなげることが出来なかった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 21 年度において国庫補助採択を目指していたが、当初計画していた“街の駅”機能が Sky Plaza MISAWA に配置されるなど、周辺環境の変化により補助事業採択が困難となった。現在、実効性のある代替プランを検討中である。
事業の今後について	未実施

③ アメリカ広場でのまつり・イベントによる賑わいづくり

(三沢市・三沢市商工会・各種実行委員会) 【再掲】

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事業概要	アメリカ広場などを活用した中心市街地地域でのまつり・イベント等の開催。開催にあたっては、市民、地域経済界、行政の協働による企画・運営とし、国際色を愉しめる賑わいあふれる中心市街地づくりにつなげる。
目標値・最新値	【目標値】設定していない 【最新値】—
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	関係団体との連携を図り、今後においても当市の特色である国際色を活かした事業を展開していく。特に若手の地域づくり団体が積極的に活動することで、新たな層の集客効果につながっていくものと考えている。
事業の今後について	実施済み

④ ふれあいオレンジ広場イベント事業（三沢市商工会・大町商店会・銀座商店会）

【再掲】

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事業概要	ふれあいオレンジ広場などを活用した中心市街地地域でのまつり・イベント等の開催。開催にあたっては、市民、地域経済界、行政の協働による企画・運営とし、国際色を愉しめる賑わいあふれる中心市街地づくりにつなげる。
目標値・最新値	【目標値】設定していない 【最新値】—
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	関係団体との連携を図り、今後においても当市の特色である国際色を活かした事業を展開していく。特に若手の地域づくり団体が積極的に活動することで、新たな層の集客効果につながっていくものと考えている。
事業の今後について	実施済み

⑤ 大規模小売店舗立地法の特例区域の設定の要請（三沢市）

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成21年度～
事業概要	大規模小売店舗立地法の手続きを適用除外とする「第一種特例区域」及び手続きを緩和する「第二種特例区域」の設定について、青森県への要請を実施
目標値・最新値	【目標値】設定していない 【最新値】－
達成状況	－
達成した（出来なかった）理由	－
計画終了後の状況（事業効果）	平成 21 年 9 月に青森県に対して「第一種特例区域」及び「第二種特例区域」の指定について要請し、同年 12 月に県から区域指定の公告がなされたことにより、既存の大型店は「第一種特例区域」として大規模小売店舗立地法手続適用除外が図られることになったほか、Sky Plaza MISAWA は「第二種特例区域」の指定により、同法に係る手続きの緩和が図られ、同月に一部開業が可能となった。
事業の今後について	実施済み

3. 今後について

当初計画では、中心市街地の集客拠点施設として整備するスカイプラザミサワ（計画時点では MG plaza）が平成 20 年にオープン、大通り地区集客施設が 22 年度にオープンする予定であったが、スカイプラザミサワが平成21年12月に一部オープンとなり本格的な事業実施が平成23年度以降となったことや、大通り地区集客施設の整備を中断することとなったことなどから、計画段階において集客の拠点として期待していた当該2施設による経済効果が見込めなかったことが大きな要因であるが、スカイプラザミサワが本格的に事業開始した平成 23 年度以降から小売業年間商品販売額が徐々に上向きに推移し周辺地域の休日歩行者通行量も増加していることから、今後これらの事業効果（商品販売額）が見込まれるものと認識している。

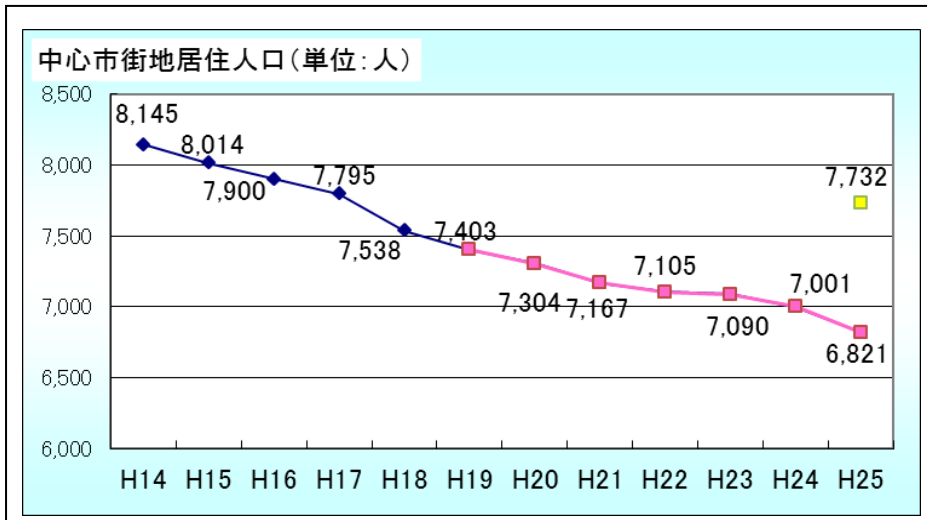
また、情報発信などにも重点を置き、各種メディアなどを活用した広報活動や地域特性を活かした集客イベントを積極的に開催することで市外・県外からの集客を図り、当該地域全体の経済効果につなげるよう取り組むほか、経営手法や販売力強化、新商品開発などをテーマとしたセミナーをこれまでに引き続き開催し、当該地域事業者の経営支援をすることで商品販売額の向上につなげていきたいと考えている。

さらに、市内飲食店事業者による地域食材を活用した食のイベントなどを定期的で開催し、地域の特色を活かしたイベントによる集客を図り、各種商店へのリピーターの確保に努めるなど『食』や『文化』を活かした事業展開に努め、中心市街地の賑わいの創出につながる施策を展開していきたいと考えている。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「安心して生活し続けられる中心市街地」

「中心市街地居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P57～P58 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	7,538 (基準年値)
H19	7,403
H20	7,304
H21	7,167
H22	7,105
H23	7,090
H24	7,001
H25	6,821
H25	7,732 (目標値)

※調査方法；中心市街地区域での三沢市住民基本台帳登録人口

※調査月；平成24年までは8月末時点、平成25年は計画終了時の10月末時点

※調査主体；三沢市

※調査対象；中心市街地居住人口

【総括】

基本計画最終年における中心市街地の居住人口は目標値より約900人少ない6,821人(目標値の約88%)となり目標を達成できなかった。要因としては計画に掲げていた街なか居住誘導のためのプロジェクト(市立三沢病院の移転跡地における市営住宅や民間賃貸住宅)が実施に至らなかったことや、街なか医療・福祉・介護施設整備事業の事業着手が遅れたことが主な要因であると考えられるが、これらに関連して見込んでいた310人の定住人口の増加につながらなかった。

これに加えて、計画段階において見込んでいた人口減少の推計を上回るスピードで当該地域の人口減少が進んだことが目標達成を困難とさせている要因であると考えられる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 街なか医療・福祉・介護施設整備事業(事業主体:医療法人財団 青仁会)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成25年度
事業概要	市立三沢病院移転跡地への医療・福祉・介護施設の整備
目標値・最新値	【目標値】設定していない 【最新値】9人(最大80人)
達成状況	—
達成した(出来なかった)理由	—

計画終了後の状況 (事業効果)	当事業については、事業主体の決定やその後の調整に時間がかかったことから事業の進捗が遅れていたが、平成26年2月に居住部分が完成し、徐々にではあるが入居者が増えているところであり、今後においても事業者との調整を行い、定住人口の増加につなげる。
事業の今後について	実施済み

3. 今後について

三沢市立三沢病院跡地の活用による街なか居住推進のための各種事業の実施にあたって、事業主体の決定やその後の調整に時間がかかったことから事業の進捗が大幅に遅れ、このことで計画期間内に事業効果を創出することが出来なかったが、今後は当該事業に関連する取り組みによる効果が表れてくるものと考えている。

加えて街なか居住の推進を図るための事業として「住宅・空き店舗新築リフォーム支援事業」を市独自の事業として平成22年度から実施しており、事業対象の拡大や補助要件の緩和などを行ってきたことで徐々に浸透しているところであるが、今後においても引き続き中心市街地活性化に資するための体制強化を図っていくこととしており、今後においても新たなソフト事業を検討するなど、暮らしやすい環境の整備を進めることとしている。